

4 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します

(18) 社会人・職業人としての自立に向けたキャリア教育の推進

- キャリア教育の目的は、将来、社会人・職業人として自立していくために必要となる、人間関係を築く力や課題を発見・分析し解決する力などの能力を育むことです。
- 愛知県教育委員会が発行している「キャリア教育ノート」では、キャリア教育の目標を、小学校では夢や目標を見つけること、中学校では「なりたい自分」を見つけ、かなえるための一歩を踏み出すこと、高等学校では自分の生き方、働き方を発見し、かなえるために具体的に行動を起こすこと、特別支援学校では生きる力を育て、社会との接点、活躍する機会を増やすこと、というように、子どもたちの発達に合わせて設定しています。子どもたちが、社会的・職業的自立のために必要となる能力や態度を、年齢に応じて身に付けていくことができるように、小学校（部）から高等学校（部）まで、継続的にキャリア教育に取り組む必要があります。
- また、本県は、製造品出荷額等が全国1位を誇るものづくり県です。今後も「ものづくりあいち」の伝統を支えるとともに、新しい価値を生み出すことのできる人材を育成することが求められています。
- 企業等での女性の活躍は、愛知県の発展・成長を支えていく重要な鍵となりますが、特に理工系の分野での女性の活躍が進んでいない現状があるため、理工系分野に対する女子生徒の興味・関心を喚起するとともに、社会の理解を促進するため取組を推進する必要があります。

施策体系

- ① キャリア教育推進体制の充実
就労アドバイザーの配置、産業界・地域と連携したキャリア教育の推進
- ② 学校でのキャリア教育の充実
職場体験活動・インターンシップ等の推進
- ③ 産業教育の充実
産業教育施設・設備の整備、ものづくり人材の育成
- ④ 理工系分野での女性の活躍促進
理工系分野への関心の喚起

施策の展開

- ① キャリア教育推進体制の充実
 - ◎ 各職業学科において、時代のニーズを踏まえた魅力的な学科への改編を進めます。
 - 知的障害特別支援学校を拠点として、「就労アドバイザー」の配置を推進します。
 - あいち夢はぐくみサポーターの登録事業所数を拡大し、地域と連携して学校のキャリア教育を支援する体制を充実します。
 - 産業界・地域と連携したキャリア教育の強化のために、企業のキャリア教育への参画を促進するなど、地域全体でキャリア教育に参加するための仕組みづくりを進めます。
- ② 職場体験活動・インターンシップ等の推進
 - 全校でキャリア教育の年間指導計画の作成・充実に努めるとともに、キャリア教育ノート等の資料を活用して、キャリア教育を一層推進します。
 - 全ての中学校で推進してきた、主に第2学年での5日間程度の職場体験を核とした取組を、第1学年や第3学年の取組に効果的に拡充し、中学校3年間を通して系統的にキャリア教育を推進します。
 - 普通科を中心に、比較的取り組みやすいジョブ・シャドウイングの取組を広めるなど、インターンシップ等に参加する生徒の増加を図ります。
 - 「キャリア教育推進事業」により、地域の福祉施設との連携を図り、小学部段階での見学や中学部段階での体験実習を積極的に進めます。
 - インターンシップに生徒を派遣している私立高等学校を支援します。
 - 地域の企業等と連携して、生徒の職場訪問や職場体験を実施したり、外部講師等によるキャリア教育の推進に関する講演会、研修等を実施したりしている私立高等学校を支援します。
 - 私立専修学校の専門課程修了者に対する専門士の称号付与や、職業実践専門課程の認定についての周知を図ります。
- ③ 産業教育の充実
 - ◎ 平成28年4月に開校となる「愛知総合工科高等学校」において、専攻科の民営化により、民間の活力やノウハウも活用しつつ、本県のものづくりの発展に必要な人材、産業基盤を支える将来の高度熟練技術者・技能者を育成します。
 - 各職業学科において、生徒にそれぞれの専門分野に関する基礎的・基本的な技術・技能を習得させるため、産業教育施設・設備の計画的な整備を図ります。
 - 「あいちさんフェスタ」を継続して実施し、職業学科の魅力を広く県民に発信していきます。
- ④ 理工系分野での女性の活躍促進
 - ◎ 産業社会において、女性の活躍する場が広がっていることから、女子生徒の理工系分野への関心を高める取組を行います。

4 未来への学びを充実させ、愛知を担う人材を育成します

(19) グローバル化への対応の推進

- グローバル化が加速する世界の中で、我が国が今後も持続的に発展していくために、トップ・リーダーの育成はもとより、様々な分野において、グローバル化に対応できる中核的・専門的な人材を育成していくことが求められています。
- このため、次代を担う子どもたちには、主体性や積極性、課題を発見し解決する力、失敗してもあきらめないチャレンジ精神、英語を始めとした語学力など、これからのグローバル社会で必要となる力を、幼児期から始まって、発達段階に応じて育てていく必要があります。
- また、本県では、今後、様々な国際大会やイベント等を契機に訪日外国人の一層の増加が見込まれることや、外国にルーツを持つ児童生徒が県内の学校に非常に多く在籍していることなどから、子どもたちは、日常的に異文化に触れることのできる環境にあります。
- このように身近なところでグローバル化が進む中で、子どもたちが日本人としての自覚を持ち、主体的に生きていくためには、我が国や地域の伝統・文化・地理・歴史に対する理解を深め尊重する態度を育てていくとともに、異なる文化を理解し尊重する寛容な態度や、他国の人々との理解を深めるために必要となる知識を身に付けさせることが重要です。
- また、全国で最も多い外国にルーツをもつ児童生徒の教育を充実させ、本県で生活するすべての子どもが、本県の県民として、自らの能力を十分発揮しながら活躍できるよう、環境を整えていく必要があります。

施策体系

- ① 諸外国の異文化や日本の伝統・文化・地理・歴史についての理解を深める教育の充実
児童生徒が海外の言語に触れる機会の拡充、郷土学習等、高校生の留学支援、東京オリンピック・パラリンピックに向けた高校生国際ボランティアの養成、高校における国際バカロレア資格取得コースの設置、グローバル人材育成に取り組む学校の連携
- ② 英語を始めとした語学力を高める教育の充実
小学校英語科導入への対応、小学校・高校におけるALTの配置、スーパーイングリッシュハブ事業の継続、英語教員の海外派遣等研修の充実、私立中・高等学校への支援
- ③ 多文化共生に向けた教育の充実
ブレスクールの設置促進、日本語学習支援基金の活用、日本語教育適応学級担当教員・語学相談員・高校の外国人生徒教育支援員の配置の拡充、外国人生徒等を対象とした特別な入学者選抜の実施校の拡大 等

施策の展開

- ① 諸外国の異文化や日本の伝統・文化・地理・歴史についての理解を深める教育の充実

(小・中・高共通の取組)

- 児童生徒が、海外派遣、海外語学研修、海外への修学旅行、姉妹校提携等、海外の言語に直接触れる機会の拡充に努めます。【再掲】
- 県内に在住する海外からの留学生と、県内の児童生徒との交流を促進します。【再掲】
- 小・中学校では、郷土に関する学習や見学、武道の授業などにより、高等学校では、日本史の授業や地域に関する課題探究学習などにより、我が国や郷土の伝統・文化・地理・歴史に対する理解を深め尊重する態度を育成します。

(高等学校の取組)

- ◎ 我が国と関わりの深い近隣アジア諸国などの文化や言語を学べるコースを設置します。【再掲】
- 高校生の海外派遣や留学支援の事業を一層推進するとともに、海外の高校生を積極的に受け入れ、海外の文化に接する機会を広げます。【再掲】
- ◎ 東京オリンピック・パラリンピックや本県が誘致しているフットサル世界大会に向け、高校生を将来の国際大会ボランティアとして養成します。【再掲】
- ◎ 外国の大学への円滑な進学と、企業等に勤める外国人技術者・研究者の子等の円滑な受入れができるよう、国際バカロレア資格の取得を目指すコース等の設置について研究を進めます。
- ◎ グローバル人材の育成や先進的な英語教育に取り組む学校が連携するための組織をつくり、留学生等も参加する研究発表会等を通じて成果の共有を図るとともに、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の伸長を図ります。【再掲】

② 英語を始めとした語学力を高める教育の充実

(小学校の取組)

- すべての小学校でALT、外部講師を活用できるよう、市町村教育委員会や大学等と連携を図ります。【再掲】
- ◎ 小学校の英語科の指導と適切な評価の在り方について研究を進め、県下の小学校にその成果を還元します。【再掲】

(中学校の取組)

- ネイティブ・スピーカーとして、外国語教育を担当する外国人教員又は外国語教育を担当する教員の職務を助ける外国人職員を雇用している私立中学校を支援します。【再掲】

(高等学校の取組)

- 先進的英語教育の拠点となるハブスクール12校を指定し、指導方法の研究や地区別研修を行う「あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業」と、すべての英語教員を対象に、生徒の英語のコミュニケーション能力を向上させる指導技法を身に付けるための「英語教育指導者研修」を実施します。【再掲】
- ビクトリア州との間で行う教員の相互派遣事業と、英語教員をビクトリア州に派遣する「英語教員スキルアップ研修」を継続します。【再掲】
- 英語教育以外の外国語カリキュラムの開設、ネイティブ・スピーカーの雇用、英語教員の海外研修への派遣など、外国語教育を推進し、グローバル人材の育成に取り組む私立高等学校を支援します。【再掲】

(小・中・高共通の取組)

- 「英語教育推進リーダー」を養成し、英語指導に当たる教員の資質向上のための研修を計画的に進めます。【再掲】
- ◎ ハブスクール12校を核として、小・中・高の英語教育に携わる教員の合同研究・研修等、相互交流を促進し、連続性をもった英語の学びを実現します。【再掲】
- 英語コミュニケーション能力を宿泊生活の中で育成する「イングリッシュキャンプ in あいち」の内容のいっそうの充実を図ります。【再掲】
- 愛知県公立学校教員採用選考試験において、「英語有資格者特別選考」を継続し、英語教育の充実のための人材を確保します。【再掲】

③ 多文化共生に向けた教育の充実

(受入体制整備、地域における支援)

- 就学前の子どもを対象としたプレスクールの設置を促進します。【再掲】
- 「日本語学習支援基金」の活用により、外国人学校に対して日本語指導者の雇用に関わる経費への支援や、日本語学習教材の給付を行います。【再掲】
- 「日本語学習支援基金」を活用した地域の日本語教室への助成や、日本語指導ボランティアの養成により、地域における日本語学習を支援します。【再掲】

(小・中学校の取組)

- 子どもたちの進路に関する情報の提供など、保護者の就学意識・意欲を高める働きかけを実施します。【再掲】
- 「日本語能力測定方法」を活用し、日本語能力を把握することにより、適切な支援を実施します。【再掲】
- 公立小・中学校における日本語教育適応学級担当教員の増員や、語学相談員による生活適応相談の充実を図ります。【再掲】
- 「特別の教育課程」による日本語指導を実施します。【再掲】

(高等学校の取組)

- 県立高等学校における外国人生徒教育支援員の配置の拡充を図ります。【再掲】
- 外国人生徒等を対象とした特別な入学者選抜の実施校の拡大を図ります。【再掲】

(小・中・高共通の取組)

- 多文化共生の視点に立った国際理解教育を推進し、児童生徒の国際感覚や異文化理解の向上を図ります。
- 愛知県公立学校教員採用選考試験において、外国語（ポルトガル語、スペイン語、中国語）堪能者特別選考を行います。【再掲】
- 管理職や日本語教育適応学級担当教員を対象とした研修を充実します。【再掲】
- ◎ 教員養成学部を有する大学に対して、帰国・外国人児童生徒の教育に関する講座の開設に向けた働きかけを行います。

4 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します

(20) 環境教育・ESDの推進

- 今日の環境問題に適切に対応し、持続可能な社会を構築するためには、県民一人一人の環境保全に対する意識を高め、環境に配慮し行動することができる能力を身に付けるための環境教育を推進することが必要です。
- また、近年、環境問題だけでなく、貧困、人権、平和、開発といった地球規模の課題が複雑につながりあい深刻化する中で、これらの課題を各国が相互に協力して解決していくことが求められており、持続可能な開発のための教育（ESD）の充実は一層重要になっています。
- とりわけ、本県においては、平成17年の愛知万博、平成22年の生物多様性条約第10回締約国会議、平成26年のESDに関するユネスコ世界会議を経て、地域全体に高い環境意識が根付くとともに、ESDユネスコ世界会議開催を契機として、ユネスコスクールや大学、事業者、NPOなど多様な主体によるESDの取組の輪が広がりつつあります。
- 学校においてESDを進めるにあたっては、人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと、また、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと、という二つの観点が重要であり、ESDの対象となる様々な課題をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から総合的に取り組んでいく必要があります。こうしたESDの取組を効果的に進めるには、県民、学校と大学、事業者、NPOなど多様な機関との連携協働が必要です。
- 今後、環境学習をより進化させるためには、県民、事業者、NPO、行政、学校等の各主体が、他の主体の優良取組を導入するなどして継続的・発展的に取組を進めるとともに、持続可能な社会づくりに必要な構成概念及び身に付けるべき能力・態度（ESDの視点）を踏まえて実施することが必要です。

施策体系

- ① 環境について学ぶ機会の充実
環境学習等行動計画に基づく環境学習の推進、高等学校総合学科・普通科コース等における学習の推進、私立中学校・高等学校への支援
- ② ESDの推進
ESDの視点に立った学習指導、ユネスコスクール交流会、関係機関との連携などによるESD活動の推進、私立高等学校への支援

施策の展開

- ① 環境について学ぶ機会の充実
 - 「愛知県環境学習等行動計画」に基づき、家庭・地域・職場等からなる「社会」、幼稚園・保育所・認定子ども園から大学に至るまで様々な「学校等」において、県民、事業者、NPO、行政、学校等のそれぞれの主体が連携・協働して、環境学習を推進します。
 - 幼稚園や小・中学校、特別支援学校では、環境学習施設、里山、里海などで、自然体験学習を推進します。
 - 小・中学校、特別支援学校では、環境に関する出前授業や環境学習副読本などを活用し、気候変動、資源循環などに関する学習を推進します。
 - 高等学校や特別支援学校高等部では、再生可能エネルギーや自然科学等に関する学習を推進します。
 - 自然科学や環境に関する高等学校の総合学科の系列や普通科コース等を中心に、地域をとりまく環境問題の解決に必要な知識や行動力を身に付ける学習を推進します。
 - 講演会や体験活動等による環境教育を実施している私立中学校・高等学校を支援します。
- ② ESDの推進
 - ESDの視点に立った学習指導や教員研修の充実を図ります。
 - 「ユネスコスクール交流会」などにより、各学校のESD活動の一層の促進、質の向上を図るとともに、活動事例集などを活用し、ユネスコスクール以外の学校へのESDの普及・啓発を図ります。
 - ESDに関する教員研修、ユネスコスクールに加盟している私立高等学校を支援します。
 - 中部ESD拠点（大学、企業、NGO、NPOなどによる協議会）と県教育委員会・県内ユネスコスクールが連携することで、持続可能な社会づくりを担うグローバルな人材を育成します。
 - 第4次愛知県環境基本計画に基づき、ESDユネスコ世界会議の成果を踏まえて、持続可能な未来のあいちの担い手「人づくり」を推進します。

4 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します

(21)「オリンピック・パラリンピック教育」の推進

- 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界最大のスポーツの祭典であり、トップアスリートの最高の技や、競技に臨む緊張感、本物の迫力を肌で感じることでできる絶好の機会です。
- アスリートが生み出す興奮と感動は、子どもたちに大きな夢や希望を与えます。競い合い全力でプレーする姿からは、勝ち負けを超えて、チャレンジすることや目標に向かって努力することの尊さ、ルールを重んじることやフェアプレーの大切さを学ぶことができます。
- また、オリンピック・パラリンピックは国や地域、言語や文化、障害の有無などを越えて人々が友好を深める場でもあります。様々な人々との交流は、子どもたちが、互いの違いを認め合い、支え合い、ともに生きることの重要性に気付く契機となります。
- スポーツには、これからの世界を担う子どもたちを育てる力があります。スポーツを通して子どもたちの心身の向上を図るとともに、文化、国籍など様々な違いを乗り越え、平和でより良い世界の実現に貢献することのできる人材を育成することが望まれています。オリンピック・パラリンピックを通じて、人々が自己の在り方を高め、より良い社会を構築することを目指すというオリンピック・パラリンピック教育を推進する必要があります。

施策体系

- ① オリンピック・パラリンピックそのものについての学びの充実
学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実施
- ② オリンピック・パラリンピックを通じた学びの推進
国際理解教育の推進、スポーツや運動への興味関心の一層の喚起

施策の展開

- ① オリンピック・パラリンピックそのものについての学びの充実
 - ◎ 学習指導要領の改訂状況も踏まえつつ、総合的な学習の時間を始めとした幅広い教科・科目において、オリンピック・パラリンピックについての学習（歴史、オリンピック精神等に関する知識や選手の体験・エピソード等）を実施します。
 - ◎ 幼児教育においても、幼児の発達段階に配慮しつつ、可能な範囲でのオリンピック・パラリンピックに関する取組の実施を周知します。
- ② オリンピック・パラリンピックを通じた学びの推進
 - ◎ オリンピック・パラリンピックを題材にした、諸外国の歴史・文化や外国語の学習等の国際理解教育を推進します。
 - ◎ おもてなしの心やボランティア精神を大会の遺産として生徒に根付かせるため、高校生を将来の国際ボランティアとして養成する取組を実施します。
 - オリンピック選手などのトップアスリートと一緒に運動に親しむことで、児童生徒のスポーツや運動に対する興味関心を高め、体力の向上を図る取組を充実させます。
 - 児童生徒を始めとした地域の人々が、アスリートや競技をより身近に感じ、関心を持つ機会ともなる事前合宿の誘致を、県内市町村や競技団体等の関係者と連携して取り組みます。
 - 愛知県生涯学習情報システム「学びネットあいち」では、オリンピック・パラリンピックに関する講座・イベント等の情報の増加を図り、広く県民に学習情報を提供します。
 - 東京オリンピックに愛知県ゆかりの選手を多数輩出し、県民の一体感を醸成します。また、本県のスポーツ推進を支える好循環を創出するため、オリンピック実施競技の日本代表レベルにある強化指定選手を対象にした競技力強化事業及び次世代のスポーツ人材育成事業を実施します。

4 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します

(22) 伝統文化・文化財の継承と新たな文化の創造

- 国際社会の中で、自らが日本人であることを誇りに思いながら主体的に生きていくためには、日本の伝統文化への理解を深め、尊重する態度を育むことが大切です。日本の長い歴史の中で生み出され、育まれ、今日まで守り伝えられてきた文化財の保存を図り、次代に継承していくとともに、その魅力が県内外に伝わるよう公開・活用を推進していくことが求められます。
- 本県には、歴史的価値の高い文化財が数多く存在するとともに、地域に根ざした様々な祭礼や民俗芸能が伝承されており、その魅力を広く県民に発信し、伝統文化を尊重する気運を醸成していく活動も必要です。
- また、本県が、世界的な都市間競争の中で存在感を発揮していくためには、国内外から人を惹きつける魅力やその発信が不可欠であり、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」の開催や、愛知芸術文化センターを拠点とした芸術創造機能を強化することにより、新たな文化芸術を創造・発信し、本県発の世界的な交流・創造の展開を目指していくことが求められます。
- そのためには、「文化芸術創造あいちづくり推進方針」に基づき、文化芸術を担い、支える人づくりや、多様な個性・価値を実現する文化芸術の場づくりに取り組んでいくことが必要です。

施策体系

- ① 伝統文化や文化財に親しむ機会の充実
民俗芸能大会や伝統文化出張講座の開催、地域の文化を学ぶ体験学習の推進
- ② 伝統文化・文化財の保存・継承・魅力発信
山車文化の魅力発信、清洲貝殻山貝塚資料館の拡充整備、文化財群のパッケージ化による地域の活性化（日本遺産）
- ③ 芸術創造・発信機能の強化
あいちトリエンナーレの開催、「第31回国民文化祭・あいち2016」の開催
- ④ 文化芸術の担い手・支え手づくり
子どもの文化芸術体験の機会の提供、高校生や若手芸術家の活動発表の場の提供
- ⑤ 県民、NPO、ボランティア、企業等が協働した多様な交流・創造の実現
芸術系大学との連携の強化、文化活動団体等への支援の充実

施策の展開

- ① 伝統文化や文化財に親しむ機会の充実
 - 民俗芸能保存団体による民俗芸能大会や伝統文化出張講座の開催を通じて、保存団体の保存・継承への意欲や、県民の民俗芸能への興味・関心を高めます。
 - 小・中学校において、地域の図書館、美術館、博物館等を活用した体験的な学習を行うことを通じて、自分の暮らしている地域の文化に対する子どもたちの理解を深めます。【再掲】
- ② 伝統文化・文化財の保存・継承・魅力発信
 - 県内全ての山車まつりを対象としたネットワークを通じて、愛知の山車文化の魅力を発信するとともに、山車文化の気運の高揚を図ります。
 - 東海地方を代表する弥生時代の集落遺跡である「朝日遺跡」を紹介する清洲貝殻山貝塚資料館について、地域のにぎわいを創出する施設となるよう、拡充整備を進めます。
 - 県内に点在する様々な文化財群を、地域に受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下にパッケージ化します。そして、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に向けて戦略的にその魅力を発信し、地域の活性化を図ります。
- ③ 芸術創造・発信機能の強化
 - 国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」を継続して開催するとともに、愛知芸術文化センターにおいて、質の高い発信力のある舞台芸術公演や美術展等を開催します。
 - 「第31回国民文化祭・あいち2016」を開催し、地域の文化に親しむ機会を提供するとともに、文化活動への参加の意欲を喚起します。
 - 愛知芸術文化センターの施設設備全般の老朽化に対応するため、計画的な改修を実施します。
- ④ 文化芸術の担い手・支え手づくり
 - アートフェスタ（愛知県高等学校総合文化祭）の開催により、高校生に文化芸術活動の発表の場を提供し、文化芸術への関心を高め、豊かな創造性の育成を図ります。
 - 愛知芸術文化センター及び県陶磁美術館での子ども向け参加型プログラムの実施などにより、子どもが文化芸術を体験する機会を提供します。
 - 愛知県立芸術大学における教育研究の充実を図るとともに、若手芸術家の活動発表の場を提供する「アーツ・チャレンジ」の開催等を通じて、新進芸術家の育成を支援します。
 - 学校における伝統文化の継承や、芸術振興の取組を進めます。
- ⑤ 県民、NPO、ボランティア、企業等が協働した多様な交流・創造の実現
 - 地元の芸術系大学との連携を強化し、大学の研究成果の社会還元への促進や、県民ニーズに対応した演奏会、講演会、美術展の開催等に取り組みます。
 - 県内を拠点に活動している文化活動団体、及び地域の文化振興に資する団体による自主的・自発的な文化活動を支援します。
 - 愛知芸術文化センター及び県陶磁美術館のホールやギャラリーを、文化芸術団体などの活動発表の場として活用し、文化芸術に関わる多様な交流・創造を進めます。

4 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します

(23) 生涯学習・スポーツの推進

- 私たちは、ライフステージや置かれた状況に応じて、生涯にわたって自発的・主体的に学び続けるとともに、学んだ成果を様々な場面で生かしていくことで、より豊かで充実した人生を送ることができます。
また、学習の過程や、学習成果を生かす際に生まれる人々との交流は、地域のつながりが希薄になっている現代において、地域の絆づくりや活性化につながるものとして期待されます。
- 読書は、生涯にわたる学習の基盤となるものであり、読書によって磨かれた感性や読書で培った教養は、人生を、より味わい深いものにします。本を読む習慣を身に付けるためには、子どもの頃に読書の楽しさを知り、読書を好きになることが重要です。
- スポーツは、人々に大きな感動や楽しみ、活力をもたらすとともに、私たちの「こころ」と「からだ」の健全な発達を促します。また、地域の活性化や、スポーツ産業の広がりによる経済効果など、明るく豊かで活力に満ちた社会を築くために欠くことのできないものです。
- 私たちが自己を高め、生きがいのある人生を過ごし、うるおいのある地域づくりを進めるためには、生涯学習やスポーツを一層推進する必要があります。

施策体系

- ① 生涯にわたって学ぶ環境の充実
公民館活動の支援、生涯学習情報の提供
- ② 読書に親しむ態度の育成
本に親しむ機会の充実、学校図書館の充実
- ③ スポーツに参加する機会の充実
スポーツ教室等の開催、スポーツ大会の招致・育成
- ④ 男女共同参画の推進
男女共同参画に係る学習機会の提供、ワーク・ライフ・バランスの普及推進

施策の展開

- ① 生涯にわたって学ぶ環境の充実
 - 地域住民の学習を保障する拠点であるとともに、地域づくり・人づくりの拠点となる公民館の活動を支援します。
 - 親が、子育てなどの家庭における課題に主体的に対応できるように、地域や学校等で「親の学び」学習プログラムを活用した講座を開設し、親としての学びと育ちを支援します。
 - 生涯学習情報システム「学びネットあいち」について、学習情報の情報提供機関数の増加を図るなど、県民への生涯学習に関する情報の提供を積極的に行っていきます。
 - 地域社会における生涯学習の振興のため、公開講座の開催や図書館・パソコンルームなどの学校施設の開放を積極的に行っている私立高等学校を支援します。
- ② 読書に親しむ態度の育成
 - 市町村における乳幼児検診の機会などを通じて、ブックスタート事業の実施や絵本の紹介リーフレットの配布など、読み聞かせの意義や重要性を伝える事業の推進を図ります。
 - 幼稚園、保育所等での絵本の読み聞かせや、一斉読書、読書集会、読書週間等における読書活動など、幼児児童生徒が進んで本に親しむことができる機会を充実します。
 - 図書整備・充実、公立図書館との連携などにより、幼児児童生徒が通いたくなる魅力ある学校図書館づくりを推進します。
- ③ スポーツに参加する機会の充実
 - 県・市町村や各競技団体が連携し、親子や家族が共に参加することができるスポーツ教室やスポーツイベントを開催するなど、成人のスポーツ参加機会の拡充を図ります。
 - スポーツ大会の持つ情報発信力や集客力により、地域の活性化を図るとともに、県民の夢と希望を育むため、全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成を積極的に推進します。
- ④ 男女共同参画の推進
 - 愛知県女性総合センター（ウィルあいち）を拠点に、男女共同参画社会の実現に向けた講座を開催するなど、男女共同参画に関する学習機会の提供を行います。
 - ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンを実施するとともに、「あいち仕事と生活の調和行动計画」に基づく取組を、労働団体、経済団体等と連携して実施します。